

第2回協議会におけるご意見と対応について

1. 第2回協議会資料2:「立川市の現況」に関するご意見

No.	ご意見	対応	該当箇所
1	「ららぽーと立川立飛」の位置が異なる。	掲載する施設を精査し、施設の位置も修正した。	参考資料:P10
2	立川市を発着する移動は、路線バスのみを利用して立川市内で完結する移動、立川駅でJR線に乗り換えて新宿方面に向かう移動、徒歩や自転車でモノレール駅まで行き、そこから立川駅に向かう移動など、多くの移動のパターンがあるのではないかと。実際の移動がパターン別でどういう交通手段を使っているのかという資料をどこかのタイミングで共有してもらいたい。	東京都市圏PT調査をもとに、市内々の移動を目的別代表交通手段別に示した。また、市内から市外への移動、市外から市内への移動など、移動パターンごとの代表交通手段を整理した。	参考資料:P8
3	立川駅まで来て電車に乗れるということが重要ではあるが、おそらくそれだけでない。若年層でも市内で完結する移動があることも考えられる。また、高齢者やそれ以外の方の移動も重要であるし、交通不便地域ではない地域でも、一人ひとり見ていくと、交通不便地域よりも厳しい状況にある人たちがいる。そういった部分を明らかにできるとよい。	ビッグデータ等により市内外・内々の移動実態を把握するとともに、アンケートやWSから年代別や地域別のニーズや困りごとを把握した。	参考資料:P11～P60等

2. 第2回協議会資料3:「今後の調査について」に関するご意見①

No.	ご意見	対応	該当箇所
4	様々な視点から調査予定であることは理解したが、高齢者についてもう少し配慮してもらいたい。高齢者を対象とした市民アンケート調査は、65歳以上を対象としているが、65歳は公共交通を不自由なく利用している人という認識があり、移動にかかる負担は80歳とは異なる。基本的な事柄に社会参加できない方が、80歳を過ぎると多い印象である。このような年代の人をどのように調査対象とするのか。また、女性からは全く違う観点から意見が出ることもあるため、そのような点もご配慮してもらいたい。	市民アンケート調査において、高齢な市民の声を多く拾えるようにサンプル数を設計し、設問によって生産年齢、前期高齢者、後期高齢者の3区分での分析を行った。また、地域コーディネーター等福祉関係者へのヒアリングやワークショップを通じて、多様な人の意見を調査した。交通施策と福祉施策の分担・連携については今後施策の検討にあたって調整していく。	参考資料:P43等 資料2:P16等
5	本アンケートは、65歳以上の方1,600人に対して送付されることになるが、年代に偏りなくお答えいただけることが望ましい。また、アンケートの回答が難しい方が移動に困っているということも想定されるため、何らかの工夫は必要である。一方で、交通施策ではなく福祉の領域となる課題も考えられるが、どの範囲まで同アンケートで対応するかについて考える必要がある。		
6	バス利用者アンケートについて、シルバーパスの更新は夏から9月頃であり、コロナの関係で郵送対応になったと記憶している。前述の部分を把握した上で調査する予定か。福祉関係者へのヒアリングでは、調査前にどのような内容を聞くのかなどを事前に伝えたのち、実施するとよい。福祉関係のヒアリング先には、地域福祉コーディネーターを含めているのか。	バス利用者アンケートについては、予定通り「高齢者のつどい」を主に回収場所を設定した。ヒアリング調査においては各事業者に事前に質問内容を送付したうえで実施した。また、地域福祉コーディネーターに対してもヒアリング調査を実施した。	資料2:P11 資料2:P16

2. 第2回協議会資料3:「今後の調査について」に関するご意見②

No.	ご意見	対応	該当箇所
7	ビッグデータの抽出方法に、注釈にて「昭島市→立川市→昭島市」という動きがあるということをビッグデータから把握していただきたい。	西砂町・一番町⇄立川駅の経由地分析を実施した。	参考資料:P69
8	立川市の特徴として、普段の通勤・通学だけでなく、商業施設や昭和記念公園のグルメイベント、ららぽーと立川立飛のアリーナでのイベントなど、日常の移動と異なる動きがある中、ビッグデータの分析をどのようにとりまとめるのか。	ビッグデータの分析では平日・休日毎の滞在場所の分析等を実施した。また、市民アンケートにて、市民の主な外出時の外出目的を調査しており、目的別の頻度や利用交通手段を調査した。	参考資料:P66～67
9	アンケート調査は市民を対象としている。市外からの来訪についてはビッグデータを利用して分析することが想定される。当調査は、市外からの移動実態を明らかにすることを主目的としていないが、分析自体を行うことは想定される。	市外からの来訪者については、ビッグデータの調査及び来訪者調査の活用によって調査した。	参考資料:P63～69
10	バス利用者アンケートの調査票を65歳以上の方の市民アンケート調査に同封してはどうか。	設問の量や調査時期等を踏まえ、市民アンケートと利用者アンケートは別途実施した。なお、シルバーパスの保有状況については市民アンケートでも設問を設けた。	参考資料:P12～14、P61等
11	市民アンケートの中に利用者アンケートの内容を盛り込む余地があれば、検討いただきたい。バスに乗らない方でもシルバーパスを取得されている方は多いと思う。		
12	市民アンケートの期間について、自分で意見を調査票に書けない方(他の方に支援を求めて記入する方)などは、支援者との日程調整を行うために3週間が経過することが予想できる。 福祉関係者へのヒアリング先として、地域包括センターや社会福祉協議会などのほかに、市内にはさまざまな支援団体があるので、そのような団体も対象にしてはどうか。	市民アンケートでは元来10/31を締め切りと明記していたがそれ以降(12/15まで)に到着した調査票も調査結果に含めた。 ヒアリングについては、高齢者・子育て世代・障害者の支援に係る団体を対象に調査を実施した。	資料2:P5,16

3. 第2回協議会資料4:「市民アンケート調査について」に関するご意見

No.	ご意見	対応	該当箇所
13	・大問1の11にある「身近で最も利用する駅」は回答者によって認識が異なるため表現を見直した方がよい。回答者の認識が異ならないような統一的に伝わる表現が設問文に必要ではないか。 ・大問2について、同行者の有無があるとよい。子育ての視点が少し足りないのので、ベビーカーや子ども連れの方の課題が把握できるとよい。また、介助する側の視点では選択肢があるが、介助を必要とされる方の視点の設問が必要ではないか。 ・大問4「交通手段が理由で外出を諦めたことがありましたか」という設問には、身体的な事情があって利用できない等の選択肢があってもよいのではないか。	ご意見を踏まえ修正した調査票で調査を実施した。	参考資料:P12～14
14	大問2-1で、バスを選択した理由としない理由はどう分析するのか。	多くの分析において生産年齢と高齢者の違いを分析した。今後の施策検討等において参考とする。	資料2等
15	①市内における日常交通の課題の一つには交通不便地域をどう補填していくのかがあると考える。今回の調査における利用実態のクロス集計を行い、課題を整理していくのか。 ②市外からの移動については、ライドシェアなどの新たなモビリティなどを含め、将来を見越した発展的な整理をしていくのか。	交通不便地域の分布や施設立地、移動実態等各調査結果を重ね合わせたうえで、課題を整理した。また、課題出しにあたっては、公共交通を取り巻く環境の変化等の「将来予測」や市としての方針を踏まえて整理した。具体的手段に関しては今後施策の検討にあたって具体化していく。	資料3

4. 第2回協議会資料5:「ワークショップの実施について」に関するご意見

No.	ご意見	対応	該当箇所
16	参加対象について、市内在住の15歳以上とあるが、在勤、在学者は対象外か。	WSの参加対象は市内在住者のみとし、市外から通勤・通学目的で来訪する方の移動実態や意向については、ビッグデータや来訪者意向調査により調査した。	資料2:P13、19
17	対象者について、住民の方と事務局だけに限定するのは非常に勿体ない。地域福祉コーディネーターの方々などの地域の関係者も参加したほうがよい。ワークショップの一番の目的は、様々な立場の視点を持つ方と意見を共有し現状に関する理解を深めることだと考える。その時に、引きこもりの実態、フレイル対策の考え方などを踏まえて、地域の公共交通に求められる役割であるとか、自分の公共交通に対する考え方をこう変えていかないといけない、みたいな気づきまでつながっていくとよいと思う。 ワークショップのテーマは、1回目と2回目は逆のほうがよい。	全10回のWSに地域福祉コーディネーターの方々も参加していただいた。また第1回の論点の順序は入れ替えた形でWSを実施した。 また、第2回のWSの内容は地域住民が自分たちで地域の公共交通に対してできることを考える論点を設定した。	資料2:P9